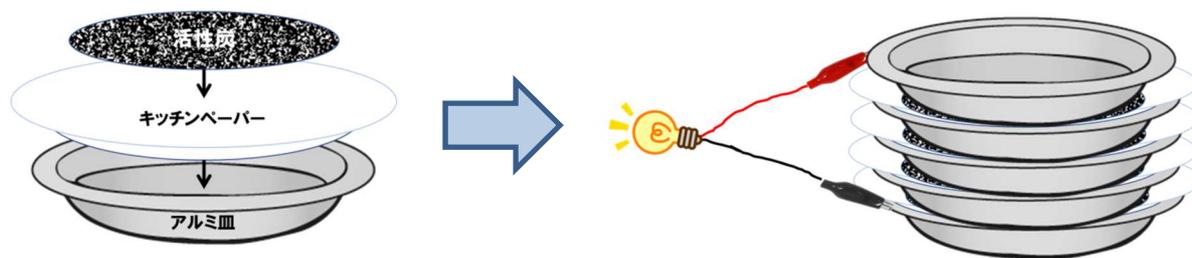


記入者	所属	(株)UACJ R&D センター	氏名	荻原 加奈
-----	----	------------------	----	-------

<実験に関する説明>

実験概要	身の回りにあるものを使って電池を作り、豆電球を光らせる。
準備する物	アルミ皿、キッチンペーパー、食塩水、スプレーボトル、豆電球 活性炭（冷蔵庫の消臭剤等に入っている）
方法・手順 安全面で 配慮すること	<p><電池の作り方></p> <ol style="list-style-type: none"> 食塩水を作ってスプレーボトルに入れる。 アルミ皿の上にキッチンペーパーを乗せて、食塩水を吹きかける。 ※ポイント※ 紙がしっかり濡れるように吹きかける。 アルミ皿、濡らしたキッチンペーパーの上に活性炭を乗せる。 2.～3.を繰り返して重ねていき、一番上がアルミ皿になるようにする。 一番上と一番下のアルミ皿に豆電球の配線をつなぐ。 アルミ皿を上からぎゅっと押さえると電気が流れて電球に光がきます！ <p>※電球に光がつかないとき※</p> <ul style="list-style-type: none"> 重ねたアルミ皿同士がくっついていませんか？ → アルミ皿の間にキッチンペーパーが入るようにしてください。 キッチンペーパーが乾いていませんか？ → 食塩水でキッチンペーパーを濡らしてください。
実験に要する時間	30分～1時間程度
本実験から小中高 生に伝えたいこと、 産業での適用事例と の関連、 授業・教科書との 関連 など	<p>身の回りのもので簡単に電池を作ることができます。</p> <p>実験が終わった後は、活性炭とキッチンペーパーに挟まれていたアルミ皿の表面を観察してみてください。 使う前と表面が変化しているはず（白くなっていたり、場合によっては穴が開いていたりすると思います）。</p> <p>アルミニウムと炭では、アルミニウムの方が溶けやすく、食塩水にアルミニウムが溶けることで電子が移動します。 移動した電子の方向と逆方向に電気が流れます。 電池のしくみは中学校で学習します。</p>
イベント等での実績 参考文献	地球教室 http://www.asahi.com/ad/clients/chikyuu/program/school/uacj/
コメント (学会記入欄)	身近にあるアルミ皿で電池を作ることで、アルミと電気が身近なものに感じられると思います。

◇作り方



◇実施例

